

【声明】

今こそ核戦争防止と核兵器廃絶の声を日本から世界へ広げよう — NPT再検討会議決裂にあたって—

2022年9月2日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

8月26日第10回NPT再検討会議が、最終文書にロシア1国が反対したことにより、合意がないままに閉幕しました。今回のNPT再検討会議では、非核兵器国を中心に核兵器のない世界に向けて真剣な論議が行われましたが、今回も最終文書の合意に至らなかったことは残念でなりません。今回の再検討会議では、2月からのロシアによるウクライナ侵略と核兵器による「威嚇」は、多くの国の代表から非難されましたが、ロシア代表は自らの行為を正当化し、最終文書への合意を拒否しました。こうしたロシアの態度は強く非難されるべきものです。

同時に、前回2015年の会議に続いて2回連続で最終合意文書が採択されず決裂となったことは、米、英、ロ、仏、中の核兵器国が、2010年の合意以来、NPT第6条にもとづく核軍縮の交渉や核兵器廃絶達成という「明確な約束」（2000年合意）に背を向け拒否し続けてきたことが問題の本質であり、強く非難されるべきものです。

合意に至らなかった最終文書案には、核兵器国からの抵抗もありながら、核兵器の非人道性に関する記述、第6条の義務の履行、自国の核兵器の完全廃絶を達成するという明確な約束の再確認が残り、核兵器禁止条約の発効とその第1回締約国会議については「認識」という記述という形で触れられました。

今回、日本の首相として初めて、岸田首相が参加しました。私たちは、NPT再検討会議開催にあたって、首相と外務大臣に「岸田総理自身がNPT再検討会議に参加されることを歓迎し、核兵器の廃絶に向けて積極的な役割を果たすことを望む」との要請書を送りました。現職首相の参加という点は評価できますが、会議の発言では、核兵器禁止条約に触れないばかりか第6条への言及がなく参加者から失望と非難の声が上がりました。核兵器の非人道性に関する共同声明に名を連ねましたが、核の先制不使用の提案には核兵器国との同盟を理由に賛成しませんでした。核兵器国と非核兵器国との「橋渡し」と言いながら、このような状況では世界から信頼を得ることはできません。今、日本政府がとるべきは、戦争による唯一の被爆国の政府として、ヒバクシャと多くの国民が望んでいる核兵器禁止条約に参加することです。

今回のNPT再検討会議の2回連続の決裂は、世界の核兵器廃絶を願う人々に深い失望と憂慮の念を与えています。6月の核兵器禁止条約第1回締約国会議には80を超える国・地域が参加して、「核兵器のない世界への私たちの誓約」という「ウィーン宣言」を採択しています。

「宣言」は、「私たちは、最後の国が条約に参加し、最後の核弾頭が解体・破壊され、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで、休むことはないだろう」と述べています。

私たちは、いのちと健康を守る医師・歯科医師の立場から、改めてロシアによるウクライナ侵略と核の威嚇を強く非難し、核兵器廃絶の声を日本から世界に広げることが決意し、とりわけ日本政府の核兵器禁止条約への参加を強く求めます。

以上